

CORPORATE PROFILE

SYSTEM INTEGRATION

CLIENT AND SERVER

VIRTUALIZATION

APPLICATION

EMBEDDED

INTERNET

CLOUD



創業以来受け継がれた「夢」

1987年、大手ソフトハウスから独立したSEら12人の精鋭たちの“夢”を集めて「MACS」は誕生した。当時、ソフトウェア業界は高度成長の追い風を受け未曾有の活況を呈していた。しかし、あまりの急成長にともなう業界の未成熟さもあって、コンピューターメーカーの下請け的体質や技術者を取り巻く労働環境の劣悪さなど、さまざまな問題も噴出していった。ソフト技術者使い捨てを意味する「35歳定年説」がささやかれていたのもこの時期である。そうした状況から、真に「社員の、社員による、社員のための」会社を造ろうとスタートしたのがMACSだった。社員一人ひとりを大切に、会社の繁栄が社員の利益に直結する。一見簡単そうで、実は困難なこの「全員参加の経営」という企業理念こそ、発足以来、脈々と受け継がれているMACSの“夢”にほかならない。

業務をアシストする業務アプリケーション開発

(業務の効率化を図る業務アプリケーション開発)
パッケージソフトという言葉を目にしたことがあると思います。購入すれば、そのまま使用できる「ワープロ」や「表計算」などのソフトのことです。一方、オーダーメイドで作るソフトウェアを業務アプリケーションと言います。金融業なら債権管理、流通業なら販売管理、製造業なら出荷や検品、公共事業ならポータルサイトといったように様々な業種で、お客様の要望を取り入れお客様の立場で使いやすいシステムを設計し、お客様に満足していただけるシステムを開発しています。



従来の枠組みを超えた新分野への挑戦

ユビキタスネットワーク社会を迎えて、情報通信技術はあらゆるものや生活の場に浸透し、様々な分野で情報通信技術との融合によって新たな製品やサービスが生み出されています。情報通信技術によって、私たちの生活はより豊かになる反面、ますますコンピュータに依存する社会のリスクも拡大しています。MACSは、組み込み技術とネットワーク技術においてより先進的な技術開発を進めており、技術提携や産学官連携を積極的に進め、技術や人材のネットワークを拡大しています。さらに、領域を超えた技術の融合や人材の連携によって新たな技術開発を目指す技術者集団として、このユビキタスネットワーク社会の要求する製品開発や信頼性の高いシステム開発に取り組めます。

生活を豊かにする組み込み技術開発

生活の中で使用するデジタルカメラ、DVDレコーダー、液晶テレビ、移動手段で使用する車、電車、飛行機。その他にも携帯電話、自動販売機、電光表示機、自動ドアなどさまざまな場面で組み込み技術が利用されています。

MACSでは、以下の組み込み開発に取り組み、社会に貢献すべく努力を続けています。

- 人の目で直接見ることが出来ない商品の内部を小型デジタルカメラで撮影し、傷の有無を判定する画像処理のシステムの開発。
- モーターの回転数やトルクを制御することで安全でスムーズな動作を実現するモーター制御コントロールシステムの開発。

システムに必要なネットワーク技術

組み込み開発、業務アプリケーション技術です。身近な例をあげると、学校、ターネット。個人のパソコンと会社のワーク技術が使用されています。何気なく使っているネットワークには、伝える必要があります。これらは当たり前のことですが、簡単なことではありません。

と並ぶ3本柱のもうひとつがネットワーク会社、一般家庭で使用されているインサーバーを安全に接続するところにネットワーク技術が使用されています。情報をスムーズにそして何よりも安全に報のセキュリティを意識したシステムのまさに縁の下の力持ちです。お客様に努力を続けています。



瀬戸 雅弘 文系卒
システム開発課
MACSは先輩方が丁寧に指導してくださるので、安心して働けるアットホームな職場環境です。このような環境であなたも一緒に働かせませんか。

服部 圭吾 文系卒
組込・制御システム課
現在、スマートフォン上で動くビジネスアプリの設計・製造を行っています。まだまだ新しい分野で日々苦勞していますが、みんなで試行錯誤しながら進めています。苦勞する分、作り上げたときの達成感が凄いです。みなさんも是非、僕たちと一緒に新しいことにチャレンジしませんか？



友本 修平 理系卒
システム開発課
上司や先輩方は非常に話しやすい雰囲気の方ばかりで、些細なことでも質問すれば丁寧に答えてくださいます。楽しく働けてなおかつ自分の成長をサポートしてくれる環境があるので、意欲を持って取り組みましょくと思っております。

山崎 裕一 理系卒
システム開発課
プログラムを組み上げることは誰にでも出来ます。『お客様がどういうモノを求めているか』『お客様に対して何を提案できるか』コミュニケーション能力こそが本当に求められる仕事です。一緒に働きましょく。



山崎 莉奈 文系卒
システム開発課
マックスでは若いうちから、いろいろな経験をさせてもらえます。私自身、入社前には全く知識がありませんでしたが、上司や先輩方に丁寧に指導して頂き、1年目で現地試験へ行くことができました。さまざまな経験を通してやりがいを持ちつつ、新しいことに挑戦しながら仕事できる点が魅力です。



甲斐 雄二 理系卒
ビジネスシステム課
若い社員にもチャンスを与えてくれる会社であるため、早い段階で様々な経験が積める会社です。仕事を任せられたといっても、任せっきりではなく、親身になってサポートして頂ける先輩が多いため、頑張ろうという意思があれば、確実にステップアップすることが出来ると思っております。



金子 麻里恵 文系卒
システム開発課
プログラムのことはほぼ知らずに入社しましたが、先輩方のサポートに助けられ、少しずつ業務への理解を深めている最中です。苦勞することもあります、その分プロジェクトをこなすごとに成長を感じることが出来ると思います。仕事に疲れたら、みんなでテニスや登山に行きます。リフレッシュのためのイベントがあるのも、仕事に打ち込める要因の一環です。

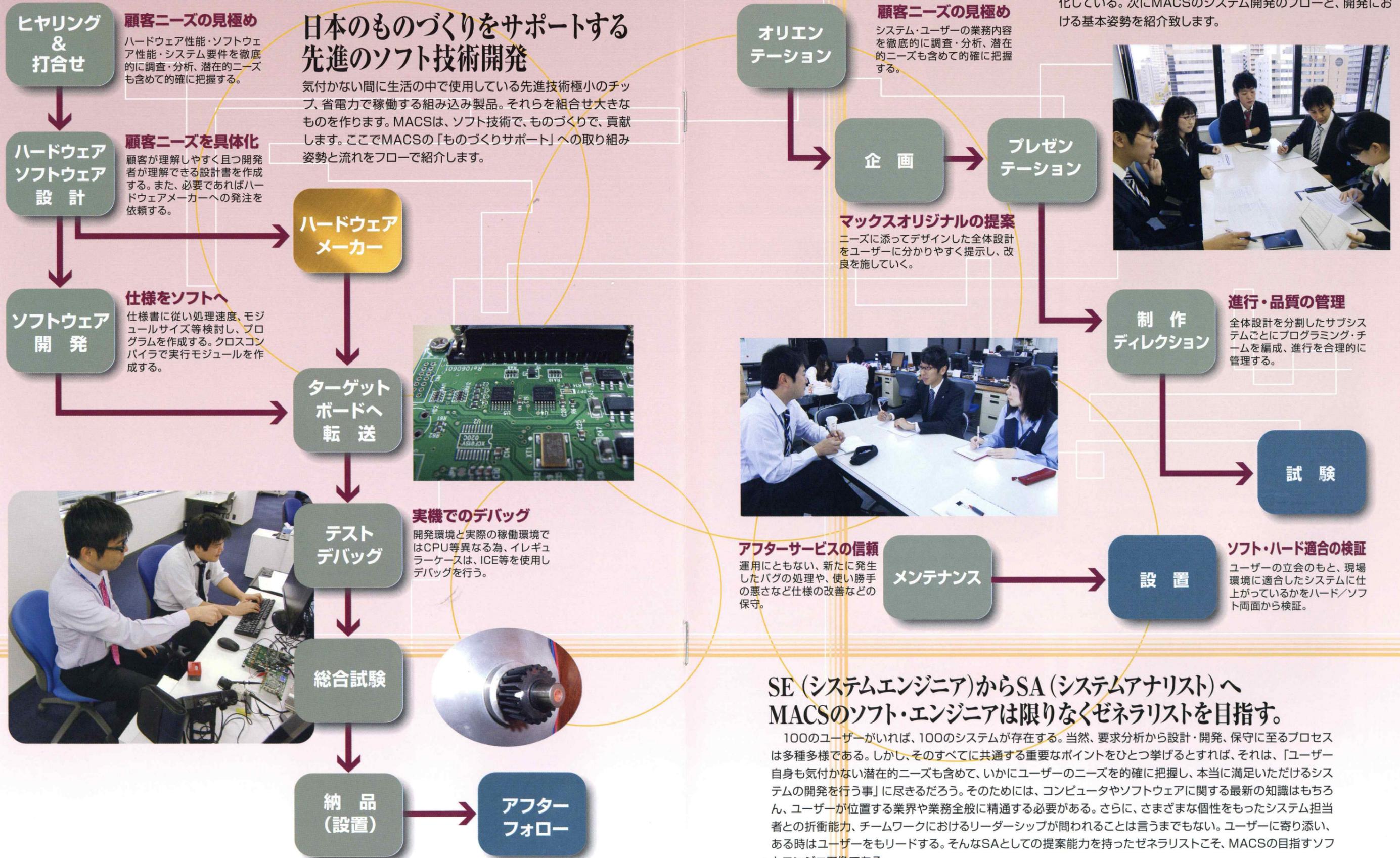


村田 明輝 理系卒
システム開発課
システムの開発者としてやりがいのある仕事を任せていただける会社だと感じています。上司や先輩方も優しく楽しい方が多く、仕事の話や相談等しやすい環境です。社内イベント、部活動等仕事以外の部分でも充実しているので、良い状態で業務に励むことができます。

コミュニケーションを無限にする MACSのトータルソリューション

提案型のシステム構築

ハードウェアのダウン・サイジングから企業の経営戦略全体を担うBPR（ビジネス・プロセス・リエンジニアリング）まで、コンピュータシステムへの社会的ニーズはますます高度化、多様化している。次にMACSのシステム開発のフローと、開発における基本姿勢を紹介致します。



SE (システムエンジニア)からSA (システムアナリスト)へ MACSのソフト・エンジニアは限りなくゼネラリストを目指す。

100のユーザーがいれば、100のシステムが存在する。当然、要求分析から設計・開発、保守に至るプロセスは多種多様である。しかし、そのすべてに共通する重要なポイントをひとつ挙げるとすれば、それは、「ユーザー自身も気付かない潜在的ニーズも含めて、いかにユーザーのニーズを的確に把握し、本当に満足いただけるシステムの開発を行う事」に尽きるだろう。そのためには、コンピュータやソフトウェアに関する最新の知識はもちろん、ユーザーが位置する業界や業務全般に精通する必要がある。さらに、さまざまな個性をもったシステム担当者との折衝能力、チームワークにおけるリーダーシップが問われることは言うまでもない。ユーザーに寄り添い、ある時はユーザーをもリードする。そんなSAとしての提案能力を持ったゼネラリストこそ、MACSの目指すソフトエンジニア像である。

ファミリーデー



年1回社員の家族が集まって行われるファミリーデー。社員を影で支える家族、そして社員全員に感謝の気持ちをこめて盛大な食事を開催している。

教育システム

あらゆる企業にとって、優れた人材の育成は最重要課題である。ただし、MACSのいう優秀な人材とは、個性を持たない金太郎あめのような優等生を意味しない。なによりも個人の持つ資質、才能を自らの手で高め、MACSの一員という誇りとともに個性的なSEに成長してほしいからだ。もちろん、新入社員研修をはじめ、数年におよぶOJTなど、社員一人ひとりの適性やキャリアパスに合わせたフレキシブルな教育システムも準備している。それらの企画・運営を担当

するのが、人材教育に意欲ある新旧社員が自主的に結成した「教育委員会」だ。委員会は研修要項の作成から最先端技術に関する内外セミナーの紹介まで、新入社員が社会人としてのマナーや業務に必要な知識と技術を習得しやすいようにきめ細かくフォローする。与えられた仕事をこなすだけの「指示待ち人間」ではなく、失敗を恐れず自ら仕事を作り出していき「創造的人間」の育成こそ、MACSの人材教育における基本的な考え方だ。

入社前研修

内定者を対象に、1～3月の月2回、自由参加で行われる。フローチャートの書き方やプログラムの基礎を学ぶと同時に事前に社内の雰囲気慣れてもらう意味もある。

新入社員研修

入社後は、教育委員会の作成した独自の研修要項に従い電話応対などのビジネスマナーをはじめ、コンピュータ未経験者にも十分対応できるように情報処理概論や基本プログラムの構築を学ぶ。その後は、社外研修や先輩SEがマンツーマンで指導にあたり、より深い情報理論、最新言語でプログラム構築の実習などを行う。



OJT (On the Job Training)

配属後は、チームリーダーのもと実際のプロジェクトにかかわりながら一人前のSEを目指した指導が行われる。OJTの期間は原則的に1年だが、その人の状況に合わせてじっくりと数年にわたって行われることもある。



その他の研修

さらに、MACSでは資格試験の受験料を負担するなど、資格取得を積極的に支援している。資格を取得した社員には、報奨金や資格手当の支給を行う。また、希望があれば、社内外の技術研修、管理職研修の受講も奨励している。

社員旅行(決算旅行)



2年に1回行われる社員旅行。これを主催するのが『松栄会』である。松栄会は、旅行をはじめ、ビアパーティ、忘年会など社員全体の親睦を図る行事の全ての企画・運営を行っている。その中でも最大のイベントが社員旅行である。旅行の半年前から、松栄会役員が綿密に計画し、旅行を盛り上げる。また計画を上回る利益を達成した年には、社員旅行とは別に全額会社負担で社員の労をねぎらい決算旅行が行われる。

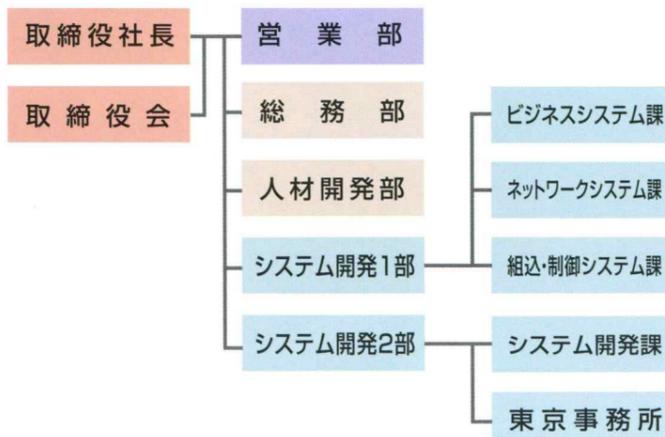


社員総会



創業以来、MACSが堅持している「全員参加型の経営」という企業理念は、決してお題目にとどまらない。毎年春と秋に行われる社員総会では、社員全員が参加してさまざまな課題が話し合われている。最新の技術動向から、福利厚生、中長期的な経営方針に至るまで多岐にわたる。SEにも欠かせないディベートやプレゼンテーション能力のトレーニングの場でもあるこの社員総会は、MACSにおける事実上の最高決議機関の役割をはたしているのだ。さらに、売上や利益配分など可能な限りの情報公開がなされ、文字通りのガラス張りの経営がなされている。個人の意思を尊重しつつ、組織の進路を決定する。こうした「全員参加型の経営」がその本領を発揮するためには、社員一人ひとりの自覚と、企業人としての高いモラルが不可欠であることは言うまでもない。

会社組織図

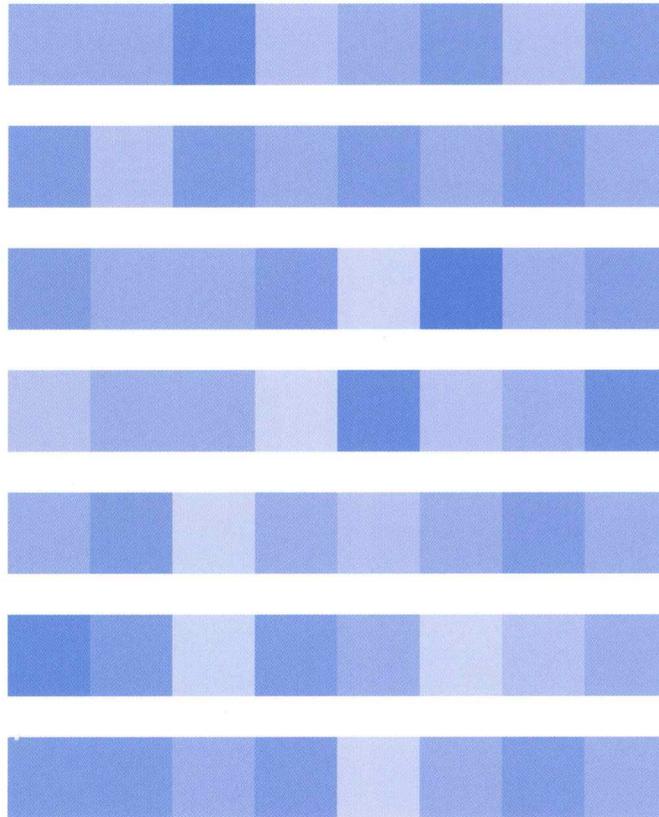


会社概要

設立 昭和62年11月
 資本金 2,400万円
 代表者 山口晃徳
 社員数 58名 (男43名・女15名)
 売上高 5億9,700万円
 事業内容 ソフトウェア開発



※地下鉄四ツ橋線「本町」駅下車③番出口を出て四ツ橋筋を南方向に徒歩5分



MACS

株式会社 マックス

本 社

☎ 550-0013 大阪市西区新町1丁目13番3号 四ツ橋KFビル
TEL(06)6536-3236(代) FAX(06)6536-3276

東京事務所

☎ 103-0025 東京都中央区日本橋茅場町1丁目3番12号 岡地茅場町ビル7階

URL <http://www.macs.co.jp/> E-mail saiyou@macs.co.jp

